

# CNA Report Japan

Newsletter focused on  
Collaborative conferencing

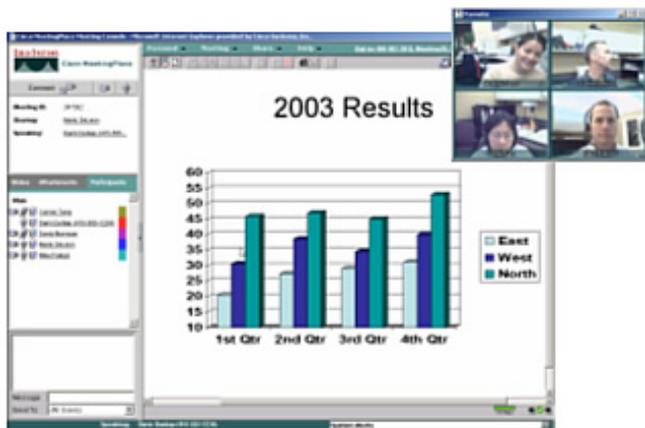
Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 6. No. 19 2004 年 11 月 30 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集:橋本啓介 [k@cnar.jp](mailto:k@cnar.jp) Copyright 2004 Kay Office All rights reserved.

## ニュースダイジェスト

### ■シスコ、ウェブ会議システム Cisco MeetingPlace ビデオ会議機能追加



シスコシステムズ(東京都)と販売パートナーの丸紅テレコムは、最近の都内でのウェブ会議システム Cisco MeetingPlace のセミナーの中で、来年 1 月より Cisco MeetingPlace にビデオ会議機能を追加すると発表した。

Cisco MeetingPlace は、電話と PC を使うことにより簡単にウェブ会議が行えるシステム。1993 年から米 Latitude Communications 社が開発してきた。世界 430 社以上 800 システムが導入されたが、2003 年シスコが米 Latitude Communications 社を買収し、シスコの一部門となった。

日本では、丸紅テレコム(東京都千代田区)が米 Latitude Communications 社時代の 2000 年から日本国内で販売。日立製作所、フェデラルエクスプレスなどへの導入実績がある。昨年の利用実績が 2,000 万分の利用。

Cisco MeetingPlace の特長としては、たとえば、マックや SolarisOS を搭載した PC 端末も会議セッションに参加が可能。MeetingPlace の音声機能を活用すると、音声電話の一斉発信が行える機能があり、必要な時に必要な人に一斉に電話コールし、着信を受信すると音声メッセージが流れ、またその場で音声会議も行える。

今回のビデオ会議機能は、シスコの IP/VC (H.323 ビデ

オ会議多地点接続装置)と、Cisco MeetingPlace サーバーが相互に連携して、ウェブ会議セッションにビデオ会議機能を実現する。今まで Cisco MeetingPlace は、PC による資料共有と電話を使ったウェブ会議システムであったが、ビデオ会議機能を追加することにより、参加者の顔やその表情を確認しながら会議セッションが行えるようになる。

このビデオ会議機能は、既存のテレビ会議システム用の多地点装置を連携させるため、Cisco MeetingPlace での会議セッションに H.323 などに対応したテレビ会議、たとえば、シスコシステムズが今年発表した、ビデオ会議ソフトウェア「VT Advantage」、他社では、タンバーク、ソニー、ポリコムなども Cisco MeetingPlace 会議セッションに参加できるようになる。



**Cisco MeetingPlace 8106(6 スロット搭載可能)**

エンタープライズ向け  
オーディオサーバ  
IP 接続 : 最大 480 セッション

T1-PRI 接続 : 最大 368 ポート

IP / PBX / PSTN の混在接続が可能

2 x 36GB 冗長化ディスク構成、2,700 時間の音声録音

ファン、電源の N+1 冗長化(電源 ON 時の挿抜可能)

モジュールの電源 ON 時の挿抜可能 4RU ラックマウント



**Cisco MeetingPlace 8112 (12 スロット搭載可能)** キャリアクラスオーディオサーバ

IP 接続 : 最大 960 セッション

T1-PRI 接続: 最大 736 ポート

IP / PBX / PSTN の混在接続が可能、2 x 36GB 冗長化ディスク構成、2,700 時間の音声録音、ファン、電源の N+1 冗長化(電源 ON 時の挿抜可能)、モジュールの電源 ON 時の挿抜可能、12RU ラックマウント

IP 接続 : 最大 960 セッション

T1-PRI 接続: 最大 736 ポート

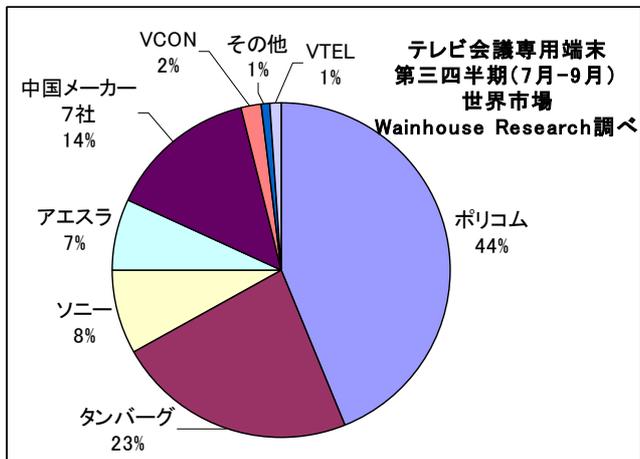
IP / PBX / PSTN の混在接続が可能、2 x 36GB 冗長化ディスク構成、2,700 時間の音声録音、ファン、電源の N+1 冗長化(電源 ON 時の挿抜可能)、モジュールの電源 ON 時の挿抜可能、12RU ラックマウント

IP 接続 : 最大 960 セッション

T1-PRI 接続: 最大 736 ポート

IP / PBX / PSTN の混在接続が可能、2 x 36GB 冗長化ディスク構成、2,700 時間の音声録音、ファン、電源の N+1 冗長化(電源 ON 時の挿抜可能)、モジュールの電源 ON 時の挿抜可能、12RU ラックマウント

**■米 Wainhouse Research 社、2004 年第三四半期テレビ会議市場統計発表—Q3販売数全世界 3 万台強、国別：日本は、1,915 台、中国は日本の約 3.9 倍で 7,445 台**



**\*専用端末・ルームタイプ、セフトップタイプなど。**

テレビ会議などの市場統計をまとめる米 Wainhouse Research 社が発表した 2004 年第三四半期テレビ会議市場統計によると、今四半期も堅実に市場が拡大し、年率で約 25%以上、工場出荷額で 20%以上の伸びを示した。

同社の調査資料によると、テレビ会議端末の出荷台数は、今まで過去最高の台数を記録。ただ、特に中国メーカーの浮き沈みがあるため、四半期毎にメーカー数の若干の違いが生じているが、同社が調査しているテレビ会議専用端末のマーケットシェア数値は、(1)6社のリーディングメーカー、(2)中国以外のメーカー、(3)中国メーカー、中国メーカーについては、7社をまとめて Team China と総称する。

上記グラフからも読み取れるように、ポリコムとタンバークが市場を大きくリードしており、上位6社メーカーで、台数及び販売収入ベースで市場の大多数のシェアを占有する。

**【専用端末販売数・売上】 \*US\$百万**

	2003 年 第三四 半期	2004 年 第二四 半期	2004 年 第三四 半期	対前四 半期成 長率	年ベ ース成 長率
端末数	23,670	27,742	30,570	+10.5%	+29.2%
売上	\$136.9	\$150.7	\$163.8	+8.7%	+19.6%

北米市場での売上は、この第三四半期において若干増えたがそれは、欧州中東アフリカ地区またアジア太平洋地区の別の地域の売上げを奪ったという感じだ。

**【国別販売数】**

国別 第三四 半期販売数	売上 (US\$百 万)	販売端末台数
フランス	\$3.9	620
ドイツ	\$3.5	637
イギリス	\$10.2	1,362
日本	\$9.3	1,915
中国	\$29.4	7,445

同社では、フランス、ドイツ、イギリス、日本、中国などから専用端末の統計数値を集計しており、同社で別途販売している、SpotCheck Report で、専用端末、デスクトップシステムの詳細な、製品毎、地域毎の数値が報告されている。報告書の年間ベースでの購入は、2,495USD となっている。



Wainhouse Research, LLC <http://www.wainhouse.com>

-----<AD>-----



**アエスラ(Aethra Italy)**

電話会議・テレビ会議  
世界第 4 位(Wainhouse データ)  
のテレビ会議メーカー

<http://www.aethra.co.jp>



**<広告>イスラエル VCON のテレビ会議製品情報(日本語):**

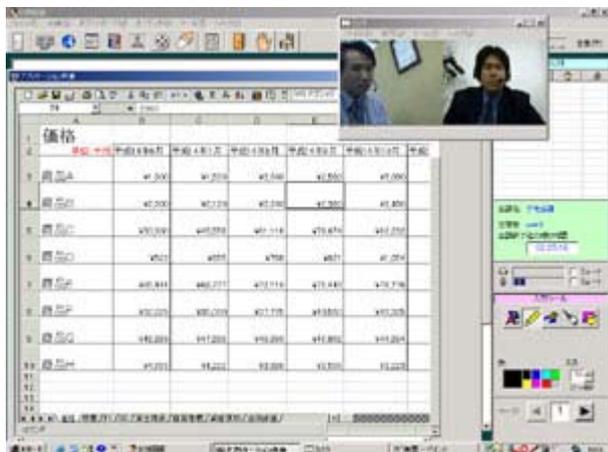
—日本地方自治体等導入実績  
—PC タイプのテレビ会議システムからセフトップタイプのものから MXM メディアエクステンジサーバー、MCU、ストリーミング、開発ツールキットなど幅広いニーズに対応。テレビ会議メーカー、大手 5 社に入る。

**H.323 対応 PC 用会議システム vPoint HD H.264 対応**

**VCON** <http://www.vcon.com>

-----<AD>-----

■ プロジェクトアイ、自社開発のPCタイプ会議システム—カスタマイズ・ソースコード販売等に強み



リアルミーティング

プロジェクトアイ(熊本県熊本市)は、自社開発のPCタイプ会議システム「リアルミーティング」を販売している。

リアルミーティングの特長について、「PC タイプの会議システムはたくさんあるが、ほとんどの製品が海外製であり、かゆい所に手が届く為には自社開発を行う必要があると感じた。ソースコード販売・カスタマイズ対応等が可能のため、その会社様にあった会議システムを様々な形で提案できる。」(同社 代表取締役 作村 衛士氏)

リアルミーティングは、リアルミーティングサーバーとクライアントソフトウェアをインストールすることによって、PC会議が行えるシステム構成が基本だが、またその他の構成では、ミキサー、マイク、スピーカーなどを組み合わせたテレビ会議のようなシステム構成もとれる。

導入先としては、これまでに約80社程度の導入実績がある。たとえば、某国立大学で学会等の発表等で利用しているという。

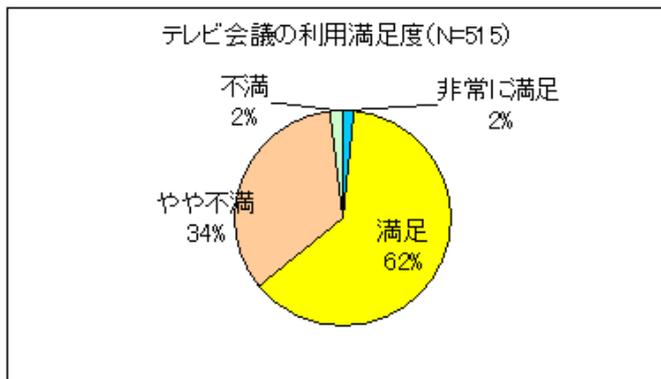
クライアントソフトの基本的な機能については、(1)ホワイトボード、(2)アプリケーション共有、(3)Webナビゲーション、(4)テキストチャット、(5)ファイル送信(PCファイルを会議参加者へ送信)、(6)カメラ(1、2、4、6画面テレビ会議表示)、(7)会議中の操作の録画、投票、在席確認(ユーザーの在席状態の確認)、(8)NAT越え(プライベートIPによる通信)、(9)中座・挙手(中座する場合や自分が話したい時に使用。自分の状態表示可能。)、(10)時刻調整(参加者毎の時間のずれをなくし自動で時間調整)などの特長がある。

サーバー側の機能としては、(1)メイン画面にて音声圧縮設定(1.4kbps から 64kbps)の選択やサーバーに接続させる最大人数を設定したりすることができる。(2)会社単位や部署単位でのユーザー管理ができるため、たとえば違う組織の会議は見ることができない、(3)登録されたIPアドレスによる排他制御が行える。つまり、登録した IP アドレスからの接続しか許可しない、あるいは登録した IP アドレスからの接続を許可しない。(4)ログ管理、誰が、いつ、どのような会議に参加したかをログとして保存。システム管理に便利、などの特長がある。

今後の販売展開に関して、同社 代表取締役 作村 衛士氏によると次のように述べている。「今後の展開として2つを検討している。まずは、自社の強みを生かした、カスタマイズ・ソースコード販売等を通じたきめ細かい提案活動を続けたい。そして、次に、当社で現在販売している複数画面プレゼンテーションソフトウェア(リアルマルチ)との組み合わせによる販売。実際のところ、テレビ会議の提案でも2画面等の環境が増加しており、それらとのコラボレーションも検討している。」

プロジェクトアイは、上記リアルミーティングや主力製品である複数画面プレゼンテーションソフトウェア「リアルマルチ」など、マルチメディアソフトウェアの開発を手がける。

■ シードプランニング、テレビ会議/Web 会議のビジネス利用実態を調査—8割が今後 IP 電話でのテレビ会議が普及すると見る



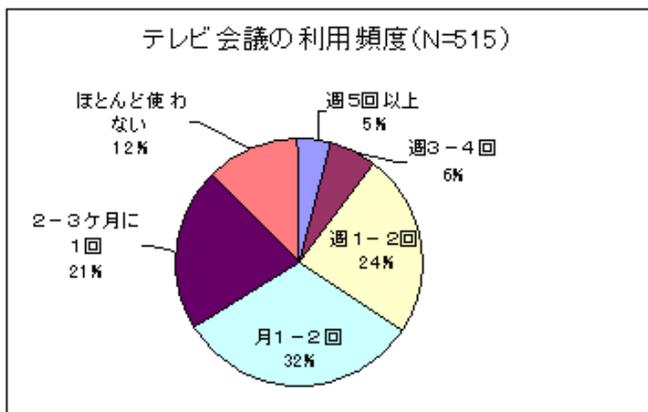
\*シードプランニング調べ

シードプランニング(東京都台東区)は、テレビ会議、Web 会議、音声会議を利用しているビジネスマンにネットアンケートを実施し、導入状況、接続拠点、利用状況、評価、

利用したい端末、今後の改善点、データ共有等のコラボレーション等について2004年8月から9月にかけてインターネットアンケートにより調査を行った。調査対象者の8割が今後IP電話でのテレビ会議が普及すると見る。

調査対象者は、テレビ会議、Web会議、音声会議を1回でも行ったことのある現在会社に勤めている会社員で、有効回答数は、515名。

今回の調査によると、テレビ会議の利用ユーザーの総合評価をみると64%のユーザーが、「非常に満足」、あるいは「満足」と回答。導入理由は、製造業が経費節減、金融・保険・不動産は業務の効率化を挙げる。業種別では、「情報システム」、「事業企画・マーケティング」がよく使う職種。接続拠点は、2拠点が34%、3拠点が21%、4～9拠点が21%、24%。利用頻度は、月1～2回の利用が最も多くて約1/3を占め、次に週1～2回が多い。週3～4回、週5回と頻繁に日常的に利用している企業が約11%あったが、対照的にほとんど使わないという企業も1割強あった。



**\*シードプランニング調べ**

テレビ会議の利用は、海外拠点がある企業の方が、海外拠点が無い企業よりも多く利用する傾向。ほとんど使わないという企業は、海外拠点がある企業の6.4%よりも、海外拠点が無い企業の方が2割強もあった。

現システムの機能評価では、「セキュリティ」や「操作性」よりも「映像品質」に不満を持つユーザーが多い。ただし、自由記述では、「セキュリティ」面での不安の意見、「簡単な操作性」の改善を求める声が多かった。また、ノートパソコンを使ったテレビ会議への要望をあげているユーザーが全回答者の56%などあった。同社より詳細報

告書は販売中。

**■ アライドテレシス、伊アエスラのテレビ会議システム 国内販売開始**



Vega Star Gold Split

アライドテレシス(東京都品川区)は、世界60ヶ国以上で販売され、テレビ会議市場におけるシェアが4位(米Wainhouse Research社調べ)のアエスラ(Aethra)社のテレビ会議システムの国内販売を開始する。IPコミュニケーションソリューションの一部としてアエスラのテレビ会議を提供する。

アエスラ社は、コーデックタイプのハイエンドから、セットトップタイプ、ルームタイプ、テレビ電話、モバイルに適したアタッシュケース入りのテレビ会議、電話会議製品など幅広いラインナップを持つ。

製品の主な機能は、(1)内蔵多地点会議機能、端末内蔵型最大の7地点、カスケード37地点、(2)高精度音声自動追尾機能、4個のマイクを利用するため追尾機能は精度が高い、(3)XGA(1024x768)の画像の送信、(4)発言者+プレゼン資料等2つの映像ソースを同時に利用できる機能、(5)H.264に対応、(6)H.235v3に対応、全ての製品に暗号化AESの実装が可能。

アエスラ社は、設立1972年。本社はイタリアアンコナ市。テレビ会議やISDN用TA、DSL用CPE、テストなどを開発するメーカー。テレコムイタリアとの関係が強い。社員数は、400名。昨年の売上げは、100億円を突破。日本国内では、VTVジャパン(東京都千代田区)が2004年7月より、日本で初めて国内総代理店。(CNAリポート・ジャパン アエス

ラ CEO インタビュー 2002 年 8 月) (CNAリポート・ジャパン Vol.6 No.4 2004 年 2 月 29 日アエスラ本社訪問レポート) (CNAリポート・ジャパン Vol.6 No.11 2004 年 7 月 15 日 日本販売開始)

■ **メディアプラス、テレビ会議のストリーミングが可能な Codian IP VCR 2200 シリーズ販売**



**Codian IP VCR 2200 シリーズ**

メディアプラス(東京都千代田区)は、一般のテレビ会議システムと接続してビデオの収録が可能なレコーダーストリーミングサーバー「Codian IP VCR 2200 シリーズ」を販売中。コンテンツは、ライブストリーミング、もしくは、マルチ・スピードで再生し、PC やテレビ会議端末への配信が可能。



Codian IP VCR 2200 シリーズの特長は、(1)コンテンツ制作機能。標準の H.323 テレビ会議システムよりビデオ及びデータをキャプチャーし簡単にコンテンツの作成が可能。プレゼンテーションや会議セッションの直接収録、1対1会議セッションの両再度の収録(ピクチャー・イン・ピクチャかサイドバイサイドのレイアウトのシングルストリーム)、(2)ストレージとの組み合わせで、外部ストリーミングサーバーへエクスポート、CD への書き込み、DVD にアーカイブなどが可能、(3)収録は会議セッションのスピードに影響されることなくマルチプルスピードで行える。(4)

ストリームライブや再生機能。多数のストリーミング参加者に対応し、ストリームは回線環境を考慮した複数のストリームスピードで配信が可能。QuickTime、RealPlayer、Windows Media Playerなどで再生。

性能的な点では、映像符号化には、H.261、H.263、H.263+、H.263++、H.264、MPEG-4、MPEG-1、ビデオ解像度は、QCIF、CIF、4CIF、SIF、4SIF、VGA、音声符号化には、G.711、G.722、G.722.1、G.728、G.729、



**システム構成例**

MPEG-1 レイヤ II に対応。H.323v4、H.239(デュアルビデオ)などに、また、SIP にも対応しているがソフトウェアのアップグレードが必要。帯域幅は、128kbps から 2Mbps までサポート。H.323 テレビ会議端末用 DTMF パスワード。AES 暗号化、トランスコード、トランスレート機能、QoS では DSCP、IP Precedence、TOS。イーサネットポートは、10/100/1000Mbps で1もしくは2ポート搭載。高さ:44mm、幅:437mm、奥行:312mm。重さは 4kg。

Codian IP VCR 2200 シリーズモデル	H.323 収録用ポート	H.323 再生用ポート	ビデオストリーミング ユニキャスト/マルチキャスト	収録時間 高品質/低品質
IP VCR 2210	1	5	100/ 無制限	50/200
IP VCR 2220	5	10	200/ 無制限	100/400
IP VCR 2240	10	20	400/ 無制限	200/800

**ショートニュース**

◆ ソフトウェア開発会社の Sky(大阪市淀川区)は、ネッ

トワーク遠隔会議システム「SKY REMOTE MEETING(スカイリモートミーティング)」を開発、2004年10月から販売開始。SKY REMOTE MEETINGは専用サーバーが不要でソフトウェアインストールやUSBカメラやヘッドセットだけで利用可能。主な機能は、ビデオ画像表示、音声通話、画面転送(接続先のPC画面を自分のPCに表示、会議資料などの共有に使える)、接続先のPCの画面を遠隔操作、テキストチャット等。企業向け基本パック(5ライセンス付き)は、60万円から。学校教育機関向けの料金体系もある。

◆音声会議システムなどの製品を販売する米クリアワン社のワールドワイドセールス及びマーケティング担当副社長に、Paul Sorrentino氏が就任。同氏の前職は、ポリコムボイス・コミュニケーション事業部門の販売担当副社長。

◆ノルウェーのタンバーク社は、テレビ会議用の運営管理ソフトなどを開発販売する米フォーゼント社から、テレビ会議運用管理システムと会議スケジュール関係のソフトウェアに関わる特許を取得したと発表。売買取得額は、375万USD(約3億8500万円)。タンバークは、すでに同社で販売している、運用管理システムと会議スケジュールである「TANDBERG Management Suite(TMS)」に関わる特許技術を強化する。既存のフォーゼントの運用管理システム(ALLIANCE)ユーザーは、タンバークのTMSサポートメンテナンスに移行することが可能。

◆米ポリコム、NAT/ファイヤーウォール・トラバースソリューションを、米Edgewater社と共同で開発。同ソリューションは、H.323系の音声・テレビ会議ネットワーク構築上ボトルネックとなりえるNAT/ファイヤーウォールの問題を解決する。既存のファイヤーウォールやセッション・ボーダー・コントローラー(SBC)などとの相互運用上も問題なくインプリメントできる。

◆米Avistar社とポリコム社は、両社がもつ特許技術においてクロス・ライセンス契約を締結。Avistar社は、AvistarVOSをコア技術としたビデオコラボレーションソリューションを提供している。Avistar社のCEO Gerald Burnett氏は、「両社協力して市場拡大に努めたい。」と抱負を述べる。

◆米フリースケール・セミコンダクタは、ラドビジョンが提

供する、H.323&SIP開発用のツールキットのライセンスを受けることになった。フリースケール・セミコンダクタは、モトローラの半導体部門として1953年から事業開始。通信プロセッサ、マイクロコントローラ、ソリッドステート加速度センサ、携帯電話用半導体/モジュールといった主要な製品カテゴリを持つ。日本では、フリースケール・セミコンダクタ・ジャパン(東京都目黒区)。

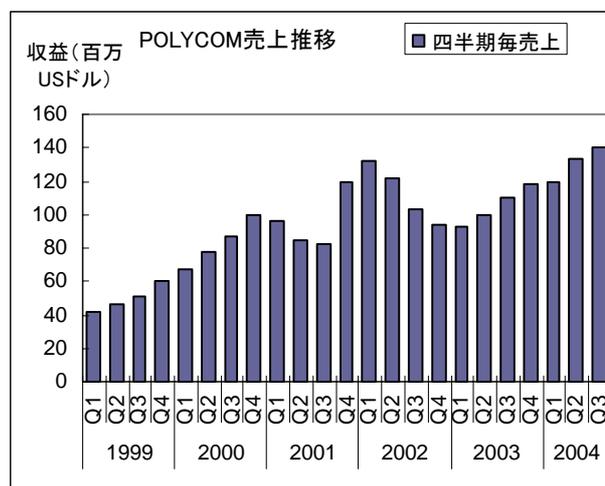
◆米プレミアコンファレンシング社の親会社Ptekホールディング社は、中小企業向けの電話会議サービスの強化の一環として、米ConferenceCallServices社を買収。買収額は、約1400万USD(約14億3千万円)。ConferenceCallServices社は、アメリカやドイツでの電話会議サービスを提供しており、直近の年ベースの売上げで1130万USD(約11億6千万円)。

◆VCONのデスクトップ会議ソフト「vPoint HD」に、キャンソンのPTZカメラ(VC-C4)が同梱されたvPoint HD Executiveを発売。1セットから購入可能。H.264対応。

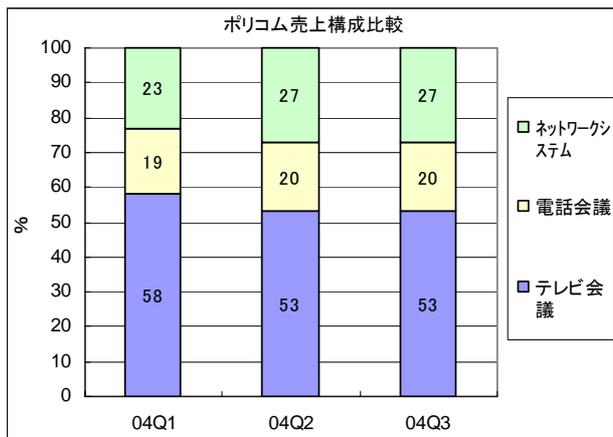
## 業績発表:第三四半期(2004年7月-9月)

### テレビ会議関連企業

#### ■ポリコム

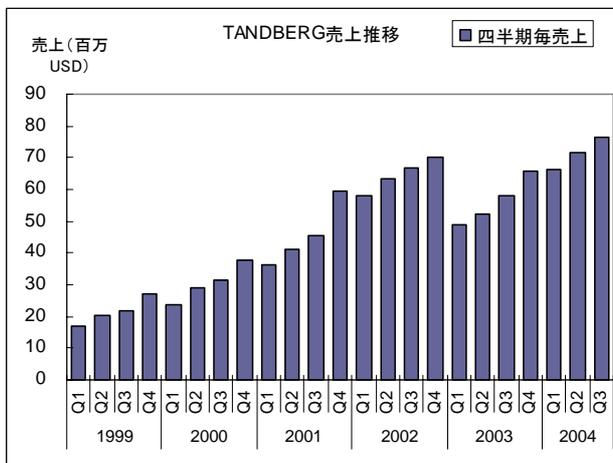


ポリコムの第三四半期は、第二四半期に引き続き過去最高売上の1億4080万USD(約145億円)を記録した。2002年の第一四半期をピークに一時は減少したが、2003年第一四半期以降持ち直し右肩上がりに売上げを伸ばしている。



売上げ構成を見ると、第二四半期と比較して金額ベースでは若干違うが、割合では同じ結果となった。しかし、テレビ会議の割合は、03年第一四半期の 56%から見ると四半期毎に低下傾向を示している。逆にネットワークシステム関係については、逆の傾向を示しており、03 年第一四半期の 18%から、今四半期の 27%と増加傾向となっている。

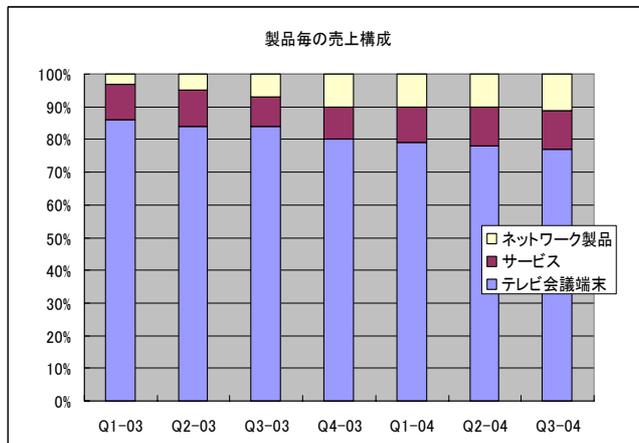
### ■タンバーク



タンバークの2004年第三四半期は、四半期としての売上(7650万USD:約78億6千万円)、営業利益(2000万USD:約20億5500万円)、販売台数(7040台)、粗利益率(68.8%)などの点において、会社創業以来の記録(同社CEO Andrew Miller氏)を達成した。

北米、アジアが特に好調で、欧州(中東アフリカを含む)は前四半期より若干売上が減少したが、季節的な変動によるものと同社では説明。アジアでは、中国、日本、

オーストラリア、ニュージーランド、東南アジアで特に好調だった。売上の割合では、北米が全体の59%、欧州が28%、アジアが13%。



全体の売上げに占める端末の売上げは、03年第一四半期の86%から、当四半期の77%へ低下傾向を示している。

タンバークとマイクロソフトは、SIP 関連でパートナーシップを組む予定で、その中で、タンバーク端末とマイクロソフトの Microsoft Live Communication との相互運用のためのさまざまなテストなどを2004年第四四半期(10月-12月期)から開始する予定と発表している。タンバーク製品のSIP実装は2005年第一四半期(1月-3月期)から。

### イベント情報(URLは詳細情報)

#### ▶ Macnica Security Summit & Centra Summit Japan

会期:2004年12月6日(月)~8日(水)  
 場所:TEPIA(財団法人 機械産業記念事業財団) 4F TEPIA ホール  
 主催:マクニカネットワークス株式会社  
 詳細:<http://www.macnica.net/lanchnews/>

#### ▶ NETWORKS 2004

日時:2004年12月08日(水)-12月10日(金)  
 主催:シスコシステムズ株式会社  
 場所:六本木アカデミーヒルズ  
 詳細:<http://www.cmarket.jp/networkers2004/>

### 編集後記

今号から米 Wainhouse Research 社とニュース交換を行うことになりました。米 TeleSpan、英 Videoconferencing Insight、独 Videoconferencing In Europe に続く4誌目となります。次号またよろしくお願ひ致します。数週間前に風邪を引いて風邪は治ったのですが咳が直りません。困った!

CNA リポート・ジャパン  
 編集長 橋本 啓介 [k@cna.jp](mailto:k@cna.jp) (CNA リポート・ジャパン Vol 6, No.19 2004年11月30日号終わり) 次号 Vol 6, No.20 は、2004年12月16日の発行を予定しております。ご購入ありがとうございます。